

【今日の説教から】

ルカ福音書より復活の記事を読み進めておりましたが、今日はヨハネの福音書です。

女性たちが空の墓にて御使いたちに出会った時、イエス様との会話があったところでは記してあるのが興味深いです。

そして今日の箇所はその日曜日の夕方のこと。弟子たちはユダヤ人を恐れて戸を全て閉めて(鍵をかけて)いました。エマオに行こうとしたクレオパたちもやはり恐れあまりエルサレムを脱出したのだろうかという風にも思われます(しかし彼らは夕方、宿屋で折りパンを割かれる方を主だと気付いて喜んでエルサレムに取って返しました)。クレオパたちがエルサレムに戻った時、弟子たちもまた主に出会ったと互いに話し合っていたとの記述があり、それが今日のヨハネの箇所の出来事だったのでしょうか。朝に夕に、イエス様は何回も女性たちと弟子たちにお現われになりました。

恐れの中に閉ざされている弟子たち。その彼らに「安かれ」と語られ、釘で割かれた傷をお見せになるイエス様。弟子たちは主を見て喜びました。イエス様はもう一度「安かれ」と語られると、弟子たちに息を吹きかけ、「私はあなたを遣わす」「聖霊を受けよ」と語られました。

ペンテコステの出来事と共に力を受け、大胆に出ていく弟子たちですが、彼らが受けた使命は「罪の赦し」でした。聖霊を受け、迫害の恐れから立ち上がり、進む彼らの使命は、敵を愛し赦すことでした。今日も私たちは遣わされ赦すために強められているのです。

皆様おはようございます。

早4月も10日を残すばかりとなりました。先日庄原市は気温28度を記録し、初夏を思わせるような陽気かと思えば、昨日からは雨ふりで肌寒くなっております。朝晩の気温差もあります。黄砂も飛んでいます。どうぞ皆様体調にお気を付けくださり、十分な休養と栄養と水分を欠かさずにご自愛いただきたいと思います。

さて私たちは、ルカの福音書より主の復活の出来事を読み進めてまいりました。

24:1 週の初めの日、夜明け前に、女たちは用意しておいた香料を携えて、墓に行った。

24:2 ところが、石が墓からころがしてあるので、

24:3 中にはいってみると、主イエスのからだが見当らなかった。

24:4 そのため途方にくれていると、見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現れた。

24:5 女たちは驚き恐れて、顔を地に伏せていると、このふたりの者が言った、「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

24:6 そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出しなさい。

24:7 すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によ

みがえる、と仰せられたではないか」。

24:8 そこで女たちはその言葉を思い出し、

24:9 墓から帰って、これらいっさいのことを、十一弟子や、その他みんなの人に報告した。

24:10 この女たちというのは、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、およびヤコブの母マリヤであった。彼女たちと一緒にいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。

24:11 ところが、使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった。

これがイースターの朝の最初の出来事の一部始終です。そののちにエマオの途上の二人の行く道に主が伴い、御言葉を語り、彼らの心は内に燃えました。パンを割く祈りの中で彼らはイエス様だと気が付きましたが、イエス様の姿は見えなくなりました。そこで彼らは休むこともなく元来た道を夕方に差し掛かる自分であったにもかかわらず、ほかの弟子たちに伝えたい一心で舞い戻って行きました。するとそこでも主が現れてくださったという話をしていました。

今日はヨハネの福音書が開かれています。

ここでも主の復活を目撃した女性たちや弟子たちのことが書かれています。

女性たちの墓での出来事には興味深い部分があります。

ルカの福音書では女性たちは天使の姿を見て言葉を聞き、空の墓を見ただけでしたが、このヨハネの福音書ではイエス様に会っています。

20:6 シモン・ペテロも続いてきて、墓の中にはいった。彼は亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、

20:7 イエスの頭に巻いてあった布は亜麻布のそばにはなくて、はなれた別の場所にくるめてあった。

20:8 すると、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいつてきて、これを見て信じた。

20:9 しかし、彼らは死人のうちからイエスがよみがえるべきことをしるした聖句を、まだ悟っていなかった。

20:10 それから、ふたりの弟子たちは自分の家に帰って行った。

20:11 しかし、マリヤは墓の外に立って泣いていた。そして泣きながら、身をかがめて墓の中をのぞくと、

20:12 白い衣を着たふたりの御使が、イエスの死体のおかれていた場所に、ひとりは頭の方に、ひとりは足の方に、すわっているのを見た。

20:13 すると、彼らはマリヤに、「女よ、なぜ泣いているのか」と言った。マリヤは彼らに言った、「だれかが、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからな

いのです」。

20:14 そう言って、うしろをふり向くと、そこにイエスが立っておられるのを見た。しかし、それがイエスであることに気がつかなかった。

20:15 イエスは女に言われた、「女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか」。マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、「もしあなたが、あのかたを移したのであれば、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります」。

20:16 イエスは彼女に「マリヤよ」と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で「ラボニ」と言った。それは、先生という意味である。

20:17 イエスは彼女に言われた、「わたしにさわってはいけない。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの兄弟たちの所に行って、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と、彼らに伝えなさい」。

20:18 マグダラのマリヤは弟子たちのところに行って、自分が主に会ったこと、またイエスがこれこれのことを自分に仰せになったことを、報告した。

ルカは、ペテロが女性たちの話を受けて墓に行き行って空の墓を見たとありますが、そのころ女性たちも再び墓に行ったのでしょうか。そしてペテロらが墓を去ってもなおマリアが墓の外で泣いているとイエス様が現れたということでしょうか。

それと時を同じくしてから、イエス様はエマオの途上の二人に現れ、ペテロに現れ、そしてクレオパたちがエルサレムに戻って主の復活のことを話していると彼らの真ん中に主は現れて、安かれと語られ、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ」と、ご自分のお体を見せたり、魚を食べながら、ご自分は実体ある方であることを語られました。

そして今日ありますように、夕刻、再び主は現れて、それでもなおユダヤ人たちを恐れて鍵をかけて閉じこもっている弟子たちに現れて、「安かれ」と二度語られ、息を吹きかけて「聖霊を受けよ」と言われ、「あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう」と語られたのです。

「手とわきとを、彼らにお見せになった」と今日の箇所にありますから、あるいはルカの福音書にあります、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ」という個所と同一の出来事を指すのかもしれませんが。

いずれにしても、この日、夕方に至るまで、何度か主の復活の目撃情報があったのです

が、弟子たちはイエス様の死からの勝利の予告の御言葉をすっかりと忘れて、迫害者たちを恐れて戸を閉めカギをかけて恐れおののいていました。

迫害者たちへの恐れと共に怒りや恨みがあったでしょうか。

20:19 その日、すなわち、一週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人をおそれて、自分たちのおる所の戸をみなしめていると、イエスがはいってきて、彼らの中に立ち、「安かれ」と言われた。

自分たちを付け狙う敵たちに取り囲まれ、今度は自分たちが吊るし上げになるのではないかとの疑心暗鬼の気持ちに取り囲まれる彼らでした。そこには恐れがありました。そんな彼らの真ん中にイエス様は立たれました。鍵をかけていたのに。戸をしっかりと閉ざしていたのに。どうやってイエス様は彼らの真ん中に立つことが出来たのでしょうか。イエス様はいつでも教会の中心におられます。イエス様が教会の主であり頭でいらっしゃるからです。イエス様はいつでも恐れ震え、心を閉ざす私たちの固く閉ざされた心の真ん中に入られ、「安かれ」と語られ、恐怖に打ち震える教会の真ん中に立たれ、「安かれ」「平安があるように」と語られるのです。

20:20 そう言って、手とわきとを、彼らにお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。

「手とわきとを、彼らにお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ」ということは、彼らの悩みと恐れは、イエス様の実体を見ることによって解消されたということですね。彼らの恐れは、イエス様は本当にここにおられるのだろうか。まだおられるのだろうか。滅びて二度と会えないのではないだろうかという悩みでした。しかしイエス様は十字架に着けられた傷をお見せになり、弟子たちと共にいたご自身であることを弟子たちに見せました。今イエス様は幻想や幻ではない、実体のあるまさしく弟子たちが知るイエス様そのものであるということをイエス様は示されました。そのことによって弟子たちは喜びました。

弟子たちは、自分たちと共におられたイエス様が、どれほど言葉にも行いにも力ある方であることを何度も知らされて知っていました。少しのパンと魚をおびたしん人たちに配ったこと、嵐を風に変えたこと、水の上を歩いたこと、病気の人を癒したこと、死んで3日目になる人を生き返らせたこと、ナインのやもめの女性の息子を生き返らせたこと…。彼らはその宝あるイエス様を信じていました。そして自分たちの前にいるお方がそのイエス様であることをお身体を見てわかり、彼らは喜んだのです。イエス様は「安かれ」と語られました。平安と調和があるように。困難と恐怖の中、恐れゆえに切り裂かれたその平安と弟子たちのハーモニーが回復するように。イエス様は教会の真ん中に立ってそう語られるので

す。

教会は嵐の中、危険と困難の中、平安と調和が切り裂かれます。心が凍てついて恐れに閉じ込められ、殻に心閉ざして一步も外に出ることが出来ない。このことは現在の教会にも当てはまるのではないのでしょうか。

この私たちが持っている平安と調和、この平安は、背が与える者とは違う、イエス様が与えてくださるものです。

ヨハネ 14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。

私たちには、私たちにしかもっていないものがたくさんあります。主の救いと癒し、永遠の命と主の平安です。そして私たちは主を頭とする体の一部分であり、神の子とされています。しかし私たちは未だ教会に閉じこもっています。世を恐れています。

20:21 イエスはまた彼らに言われた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす」。

20:22 そう言って、彼らに息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ」。

イエス様が弟子たちを励まし、平安で満たし、調和とハーモニーを回復させたのは、弟子たちを遣わすためでした。

「聖霊を受けよ」。これはペンテコステの日に実現しました。

使徒 1:8 ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

20:23 あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう」。

私たちは遣わされて何を語るのでしょうか。それは罪の赦しです。その罪の赦しは、今彼らが恐れて閉じこもっている戸の外にいる、弟子たちを憎み、侮り、畏を仕掛けて我がものにしてしようと画策して取り囲む彼らに対する、その罪に対する赦しでした。

ルカ 23:34 そのとき、イエスは言われた、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をし

ているのか、わからずにいるのです」。人々はイエスの着物をくじ引きで分け合った。

ピリピ 2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

2:3 何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっただいていてのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

1 テモテ 2:4 神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる。

2:5 神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。

イエス様は「世の罪を取り除く神の子羊」(ヨハネ 1:29)として世に来られ、贖いを成し遂げてくださいました。神様は人が神の敵であった時から無条件に人を、私たちを愛してくださいました。

ローマ 5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

神様が求めておられるのは私たちが悔い改めて罪赦され救われることです。

ヨナは敵国アッシリアの首都ニネベに行って神様の救いを伝えることをよしとはしませんでした。しかしそれが神様の御心でした。

ヨナ 4:10 主は言われた、「あなたは勞せず、育てず、一夜に生じて、一夜に滅びたこのとうごまをさえ、惜しんでいる。

4:11 ましてわたしは十二万あまりの、右左をわきまえない人々と、あまたの家畜とのいるこの大きな町ニネベを、惜しまないでいられようか」。

神様は、私たちをあらゆる恐れから解き放ち、復活のお体を私たちに見せ、その実態を私たちに告げられ、今日も生ける力ある方であることを私たちに見せてくださいます。証明してください。何度も私たちの人生の旅の途上に現れてくださり、語り掛けてくださり、心を燃やしてくださり、魚を食べて見せるようにしてイエス様が実体ある方であることを私たちに見せてくださいます。私たちは恐れを取り除かれ、閉ざされた門から出て、主に遣わされて、人々が赦しを得るために語り、働きかけるのです。

20:23 あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう」。

キリストの御名によって人が得る者はなんと大きなものなのでしょうか。私たちがキリストの御名をお伝えするという事は、何と光榮に満ちたものなのでしょうか。

主は安かれと励まし、息を吹きかけ聖霊を受けよと私たちのくすぶる火種をめらめらと燃やして励まし慰め力づけて私たちを派遣されます。さあ、戸を開いて出発しようではありませんか。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。恐れと不安の中、戸に鍵をかけて閉じこもっていた弟子たちに主が現れ、弟子たちを喜びに満たし、恐れを解き、力づけ、赦しのために遣わされました主の出来事を知り、私たちをも様々の恐れから解き放って罪の赦しのために遣わされます主の御旨に感謝いたします。どうぞ私たちに喜びと力に満たして遣わしてください。多くの方々の罪を赦す主の十字架と復活を語らせてください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン